

背景・課題

- 国際的な頭脳獲得競争の激化の中で我が国が生き抜くためには、優れた人材が世界中から集ってくる**“国際頭脳循環のハブ”**となる**研究拠点の構築**が必須。
- WPIプログラムの支援により、世界トップ機関と並ぶ卓越した研究力や国際化を達成した、世界から「目に見える研究拠点」の形成に成功。
- 平成29年度は新規2拠点を選定し、平成30年度はさらに**新規2拠点の公募を実施予定**。また、補助金終了後のWPI拠点をはじめとする拠点をネットワーク化し、それらの持つ経験・ノウハウを展開することで全国的な基礎研究力の強化につなげる新たな枠組みである**“WPIアカデミー”**を**立ち上げ、WPIの成果最大化の取組を開始**。

【未来投資戦略2017における記載】

中短期工程表「イノベーション・ベンチャーを生み出す好循環システム④」：世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)の構築を推進

事業概要

【事業目的・実施内容】

- 大学等への集中的な支援により、システム改革の導入等の自主的な取組を促し、**優れた研究環境**と**世界トップレベルの研究水準**を誇る「**目に見える研究拠点**」を形成。

-Science-
世界最高水準の研究

-Reform-
研究組織の改革

-Globalization-
国際的な研究環境の実現

4つのミッションの達成により
世界トップレベル研究拠点を構築

-Fusion-
融合領域の創出

～平成30年度予算のポイント～

- ①補助金支援実施中の拠点への支援を引き続き着実に実施
- ②WPIの成果最大化の取組を引き続き着実に実施
- ③平成29年度に引き続き、**新規2拠点(7億円程度×10年)の公募**を実施

【拠点が満たすべき要件】

- 総勢70～100人程度以上(H19、22年度採択拠点は100人～)
- 世界トップレベルのPIが7～10人程度以上(H19、22年度採択拠点は10人～)
- 研究者のうち、常に**30%以上が外国人**
- 事務・研究支援体制まで、すべて**英語が標準**の環境

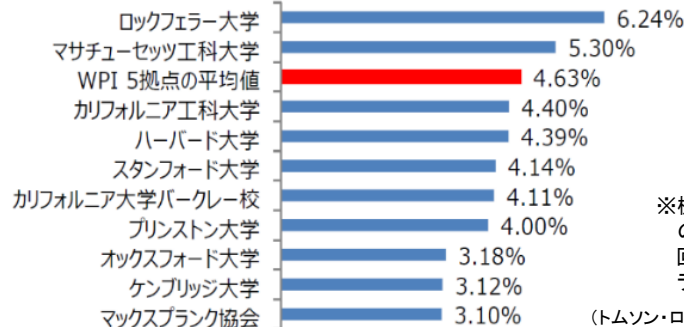
【事業スキーム】

- 支援対象：研究機関における**基礎研究分野**の研究拠点構想
- 支援規模：最大7億円/年×10年(H19、22年度採択拠点は～14億円/年程度)
※拠点の自立化を求める観点から、中間評価後は支援規模の漸減を原則とし、特に優れた拠点については、その評価も考慮の上、支援規模を調整
- 事業評価：ノーベル賞受賞者や著名外国人研究者で構成されるプログラム委員会やPD・POによる丁寧かつきめ細やかな進捗管理を実施

【これまでの成果】

- 世界のトップ機関と同等以上の卓越した研究成果
- 平均で研究者の**40%以上が外国人**
- 民間企業や財団等から大型の寄付金・支援金を獲得**
例：大阪大学IFReCと製薬企業2社の包括連携契約(100億円+α/10年)

(参考)質の高い論文の輩出割合※



※機関(先行5拠点)から出た論文のうち、他の研究者から引用される回数(被引用数)が多い上位1%にランクインする論文の割合。

(トムソン・ロイター社(当時)調べ(2007年～2013年))

【WPI拠点一覧】

